



## 地質調査業に携わるきっかけ

日本物理探鑛株式会社 東北支店

光井 清 森

まず自己紹介を致します。私は日本物理探鑛株式会社東北支店の光井清森です。光井は三井とよく間違えられます。三井財閥の三井ではありません。清森はキヨヒロと読みますが、清森と間違えられます。水を3つ重ねる森という漢字があるとは思ってもよらないのでしょうか。まず、担任の先生も最初はなんと読むのか尋ねられたものです。因みに、入試とかの合格発表、住民票も森となっていたこともありました。ある銀行の口座を作るとき、テクリスの登録で森がないので、ひらがなかカタカナにして欲しいと言われた次第です。

生まれも育ちも福島県で、地形・気候などから浜通り、中通り、会津地方と分けられている内の浜通りに属する原町市です。本社勤務後、仙台に参りましたが、早くも14年になります。

趣味と言っても多趣味で誇れるものはありません。ここで短歌を一句。

「この欄は」「インタビューかと」「思いきや」「インタビュー来ず」「催促のみあり」

海外旅行も趣味の中の一つです。最近は格安航空券も手に入りやすくなり、旅行に出かけ易くなっています。私の場合、科学博物館、遺跡などの見学が主なる目的であり、ヨーロッパ、USA、アジアなどを訪れています。また、日頃の趣味のガーデニングと言ってもベランダで観葉植物を植えているだけである。誇れる事は、アボガドなど食べた後の種を植えるなどして、あまりお金を掛けないことかな…。

次に、この地質調査業に携わるようになったきっかけは、そもそも大学入試のとき化学志望であっ

たが、第二志望の地学に廻る羽目になった。大学を辞めて次年もう一度受験をと思ったが、両親のがっかりする姿が思い浮かび、それをは実行に移せなかった。ここで採られた折衷案は大学には籍を置くものの、次の年受験しようと言う二足のわらじの計画だった。ところが生温かい学生生活に浸かると、すぐに一足のわらじとなり、四年が経った。卒業して社会に出るのは、いささか恐ろしく思われ、そこで大学院に進学した。さらに5年が経過し、博士課程を修了すると奨学金が貰えなくなり、生活費を確保するため、建設コンサルタントのアルバイト（今で言うフリーターかな）をしたことが、この業界に入るきっかけだった。

私が学んだ地質学では地質現象を歴史的に、定性的に論ずるのに対して、土木工学では、地盤を力学的に定量的に評価するため、かなりの違和感があった。その中で、ある土木屋さんの語録をあげてみる。

地質図…、地形図に色を塗っただけですか？

地質図で花崗岩なのに、それがマサなんですよ。

安山岩であろうと玄武岩であろうと土木的に大差はないんでしょう。

何億年前の地層と漠然と説明されても…。

続成作用、変質作用と便宜的に使用されても…。

このように地質学では、歴史科学のため解釈に個人差があり、客観的説明にかけらきらいがあるが、自然との対話を重要視し、土木と地質の境界を埋めるべく、地質調査業に貢献したいと思いません。